

植物の写真をうまく撮る際の‘役に立つかわらない’覚書 其の六の其の四

植いき新聞



植物いききサークル

第75号

発行者:犬丸

レンズマウント 第74号で次号にて写真とレタッチについて述べたいと報告したものの、さらにレンズマウントについても述べたく、ここに其の四として第75号を発行してしまった。一般のコンデジあるいはスマホで写真を撮っている人には、このレンズマウントは本当に無用の知識であることは、十分に理解している。しかし、最近ではカメラ女子でも、約2割が一眼カメラを所有している事実もあり¹⁾、この話題に関して、本新聞でまとめることに、わずかでも意味があるだろうと思いこみ、発行した次第である。

一眼カメラ、かつては一眼レフカメラと言われ、括られたジャンルではあるが、昨今の技術の流れからレフ（ミラー）がなくなり、総じて一眼カメラと呼ばれるようになった。そのカメラ構造は、別報にて（懲りずに）述べることもあるかもしれない(´-`);)、が、カメラにレフ（ミラー）があろうがなかろうが、コンデジあるいはスマホで撮影している人にとっては、その構造にはまったく興味がないと思われる。しかしながら、一眼カメラに手を伸ばした人は（たぶん、少しでも高画質で被写体を写したいと願う人は）、一眼カメラはまずカメラのレンズが交換できることに、コンデジとの大きな違いを感じるであろう。そのレンズ交換に伴うハードルの一つとして、レンズマウントがある。

レンズマウントとは、カメラボディ（本体）とレンズの接合機構であり²⁾、カメラメーカーで大きく異なる。例えば、Canon社のレンズを、Nikon社のカメラに組み合わせようとしても、普通では接合できない。特別にマウントを変換するアダプターを介せば、可能になることもあるが、レンズやカメラの動作上で制約になることも多く、通常の仕様とは異なることが多いため、詳しい人以外はその利用を進めることができない。そのため、レンズやカメラの組み合わせには、そのレンズマウントがどのようなマウントであるかを見極めておくことが必要となる。

現時点で、レンズ交換式のカメラとして覚えておくよいレンズマウントは、たぶん Full Frame と APS-C Frame（Frame については第48号を参照）を考慮すると、独断的に次の6つになるかと思われる。①EFマウントとEF-Mマウント、②Fマウント、③Kマウント、④AマウントとEマウント、⑤Xマウント、⑥Mマウント。①はCanon社の一眼レフと一眼、②はNikon社の一眼レフ、③はRicoh社のPentaxの一眼レフと一眼、④はSony社の一眼レフと一眼、⑤はFujifilm社の一眼、⑥はLeica社のレンジファインダーのカメラである。マウントの細かな仕様や派生については、各社のHPに委ねるが、一眼カメラを持っている人がまず知っておくと便利なマウント名は上記の6つでよいと思う。その他のマウントも含めて一覧はWikipedia³⁾に譲るも、実はレンズマウントは、カメラ会社の思惑が深く、マウントの制約がカメラを選択する要因ともなっている。裏を返せば、所有するレンズによって、カメラ会社をそう簡単に変えられない縛りがあったりする。そのため、カメラ会社も簡単にレンズマウントを変更することが難儀で、②のNikon社のFマウントや、③Ricoh社のPentaxのKマウントにはMF（マニュアルフォーカス）時代からの長い歴史があたりする。Fマウント一つでもその歴史を語れる³⁾ぐらいに、レンズマウントは奥深かったりする。

次こそ写真とレタッチについて述べないと思いつつ、カメラの構造を述べると...話が長くなるへ(´-`);)。

1) <http://www.shufunotomo.co.jp/sokei/?p=529>（閲覧：2015.7.8）

2) <https://ja.wikipedia.org/wiki/レンズマウント>（閲覧：2015.7.8）

3) http://dc.watch.impress.co.jp/docs/review/lensmount/20120418_527033.html（閲覧：2015.7.8）